

## 第 20 回（令和 3 年度第 1 回）学校運営協議会議事録

日時 令和 3 年 5 月 28 日 15 : 30 ~ 17 : 00

Web 会議

出席者（敬称略）

### 【委員】

- 内川 隆（本校同窓会長）
- 大石 進（桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部客員教授）
- 鈴木 秀幸（青葉区大場町在住）
- 西村 明展（青葉区鴨志田町在住）
- 横澤 孝泰（あおば支援学校長）
- 佐藤 弘之（本校校長）

### （欠席者）

- 飯島 正徳（東京都市大学知識工学部教授）
- 佐々井 正泰（横浜市青葉区保健センターこども家庭支援課 学校連携・こども担当課長）
- 高篠 直江（本校 PTA 会長）
- 竹下 恭子（横浜市立市ヶ尾中学校長）

### 【事務局】

- 米田 朋正（本校副校長）
- 伊藤 育生（同 教頭）
- 檜垣 桜子（同 事務長）
- 大矢 真（同 学校運営協議会担当）
- 齋藤 真（同 学校運営協議会担当）

### 【本校各グループリーダー】

- 本屋敷隆裕（本校 キャリア支援グループリーダー）
- 吉居 英明（同 生徒会支援グループリーダー）
- 伊藤 和久（同 生徒指導グループリーダー）
- 木村 秀樹（同 管理運営グループリーダー）
- 佐野 英樹（同 地域連携・広報グループリーダー）

### （欠席者）

- 吉行 伸（同 カリキュラム開発グループリーダー）

1 校長挨拶

2 委員紹介

3 本校関係職員紹介

#### 4 会長選出

会長： 鈴木 秀幸委員

#### 5 会長挨拶

#### 6 報告事項《○委員、●学校》

##### (1) 学校運営協議会について

- 本年度の委員ならびに校内関係者は先ほど紹介したとおりである。部会は学校評価部会と地域協働部会の二つで、本年度の運営協議会日程は資料のとおりである。第2回と第4回は今のところ対面で予定している。委嘱状に関しては次回（10月30日）の会議で渡す予定である。

##### (2) 学校からの報告について

- 入学式は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から生徒一人につき保護者1名、また全席指定という制限の中ではあったが398名の入学を許可し、無事終了した。
- 遠足については4月15日に3学年とも開催した。
- 芸術鑑賞会では相模女子大学グリーンホールにて「学校寄席」を鑑賞した。久しぶりのライブということで生徒たちはとても有意義な時間を過ごせた。
- 体育祭は新型コロナウイルス感染症対策を施すうえで開催する予定である。
- 今後、新型コロナウイルス感染拡大に伴い分散登校や短縮授業を実施しなければならない状況がありうる。そのため、5月10日にオンライン授業の試行を行った。
- 進路について45期生は英語の4技能や共通テストの変化、また、3年時には新型コロナウイルスの感染拡大の影響があり辛い思いをした学年であった。しかし、1年時から英語の4技能については入試を意識した指導ではなく生徒たちが将来、ツールとして活用できるように指導した。そのため、進路実績は良かった。また、『生徒にとっての東大（生徒が一番行きたい大学）』に合格させるということを大切にしている。その中で、3年生に満足度調査を行い、生徒が望むところに行けたのかをアンケートで確認しており、この試みは今後も行う。
- 学校広報については、資料2に書いてある通りに行う予定である。新型コロナウイルス感染拡大の影響で変更する恐れもあるが、中学生や保護者に学校を知ってもらえる機会であるため大切にしたい。
- 部活動についてはバドミントン部が関東高等学校バドミントン選手権大会（女子、団体）に出場、書道部が全国高等学校総合文化祭にて入選した。

##### (3) 学校目標等について

- 令和4年度から学習指導要領が変更される。本校は総合的な探究の時間の指定校になっているためプロジェクトチームを中心とした教科横断的な学びの研究を進めている。総合的な探求の時間を中心に各教科において課題対応能力などの育成を目指している。

## 〔生徒会支援 G〕

- 部活動、ボランティア活動、生徒会活動の活性化を図っている。また、本年度は新型コロナウイルスの感染が拡大されている中で、どう工夫したら行事ができるのかを目標として掲げている。特に体育祭は耐震工事の関係でグラウンドも小さくなっているが、少しでも例年に近い形で行えるように工夫している。文化祭についても例年通りとはいかないが、少しでも生徒が楽しめるように創意工夫を図っている。

## 〔生徒指導 G〕

- 4年間の目標として、人としての在り方、生き方を学ぶことが大切である。その中で3つのことに力を入れている。1つ目は生活習慣の徹底である。その一例として遅刻指導を行っている。2つ目は生徒の人権意識の向上を図るために人権研修の実施をしている。また、そこまでの指導においても、他者への配慮や思いやりを意識した行動を促すことを大切にしている。3つ目は教育相談を通じて生徒の悩みや苦しみというのを取り除けるようにサポートすることを大切にしている。

## 〔キャリア支援 G〕

- 生徒一人ひとりの進路実現に向けたサポートを3年間とおして行っていく。また、大学生活は人生の中での通過点に過ぎないことであり、大切なことは今後の社会において自分はどのような形で社会に貢献できるのかなどの職業観であるため、そのことを意識させていく。また、昨年から利用し始めたクラスルームなどのオンライン上でも生徒をサポートしていく。

## 〔地域連携・広報 G〕

- 地域との連携事業を充実させ、生徒の社会参画意識やコミュニケーション能力の向上を目指す。「市ヶ尾ユースプロジェクト」の廃止に伴い新たな地域連携を模索している。今後も協力できそうな企業を探しつつ、今年度には実施まで出来るようにしていきたい。また、生徒が『地域人』として意識できるように生徒が地域にどう貢献できるのかを考えている。

## 〔管理運営 G〕

- 防災体制、防災意識の強化を図る。職員研修や事故防止会議などを充実させたい。また、耐震工事の関係で8月にプレハブ校舎に移動することになるが、そこでも円滑そして安全を心掛けたい。

## (4) 質疑応答、意見

- 入学者の男女比について、今年は1:1であるが全校生徒を見たときに女子生徒のほうが多いがそれには何か原因があるのか。
- 正當に試験を行った結果であるため、原因は不明である。
- 生徒指導の取り組み内容において、遅刻指導の徹底、いじめの未然防止を図ると書いてあるが遅刻やいじめで何か問題があったのか。
- 遅刻については、数年前は多いという印象があり、3年ほど前から遅刻指導のやり方を変更したところ、効果的であったため今後も継続していく。また、いじめについても何か問題があったからではなく、いじめは絶対に許されるものではないという意識の元で生徒に指導をしている。

○生徒向けの人権研修はどのような形で行っているのか。

●新型コロナウイルス感染拡大以前は、3月に生徒を体育館に集めて行っていた。人権研修の内容は学年によって異なり、障害者スポーツやいじめ被害者の両親による講話等を行った。ただし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインでの研修を検討している。

○教員の働き方改革はどうなっているのか。

●教員の働き方改革ということで、ワーキングチームを作った。具体的な取り組みとしては Teams を使用し打ち合わせ事項などを載せ、会議の時間を短縮させている。また、時差登校ということで朝の打ち合わせの時間に職員会議などを行い、放課後の時間を部活指導や授業準備に充てられている。課題は新型コロナウイルス感染拡大の影響により新たな業務が増えたため、その業務に時間がかかってしまうということである。

○地域との協働ということで様々な施設に訪問はしているらしいが現状どうなっているのか。

●現状は 20 弱の施設などに訪問をした。今後は訪問先と何ができるかということを探りたいが現状そこまでに至ってない。また、追加の施設も訪問することになっているのでその追加訪問を踏まえ、研究し今年度までには実践したい。次回の学校運営協議会では報告したい。

○校内のオンライン授業はうまくいったのか

●去年は動画を流すという形が主流であったが、今回の試行の目的は授業に近い形で同時相方向のオンライン授業ができるかということだった。その中で教員が創意工夫をし、ICT をうまく活用していたため、今回の目的は果たせた。また、家庭の Wi-Fi 環境に不安などがある生徒は学校に来てもらいその場でオンライン授業を受けるといった形で行った。実際、学校に来た生徒は 2 名しかおらず多くの生徒は家庭でオンライン授業を受けることができた。試行した結果、課題等も見つかったので改善していきたい。

●本校のグランドデザインは『自ら誇りをもって社会的な役割を果たす』『豊かな人生を切り開く』の 2 点である。『自立』『創造』『対話』を軸にしてそのような人材を育成していく。

○バドミントン部の出場する関東大会は、個人、団体、どちらなのか。

●女子の団体が関東大会への出場が決定している。

○学校内だけで業務に取り組もうとせず、もう少し地域住民を頼ってほしい。地域全体で連携、協力していくことが大切だと思う。

○『生徒のために』ではなく『自分が楽しむ』ために行動をし、その結果が生徒のためになるような仕事にしてほしい。

○素晴らしい方々が委員として集まっているにもかかわらず、次の会議までに 5 か月間も空くのはもったいない。会議以外でもサークルスクエアなど、情報交換ができるシステムを活用したい。

○今後、オンライン授業をやらざるを得ない状況になる可能性があるため、今のうちから ICT 活用ができるようになってほしい。

○地域間のつながりを大切にしていきたい。活動場所の提供など、サポートができるようにしていきたい。

## 7 その他 次回の開催日の確認

令和 3 年 10 月 30 日 (土)